

馬路村について、調べてみましょう。



③自然かんきょうを生かしている地いき

選たく A ～馬路村(山地のくらし)～

「これ何だか分かりますか。」

先生

先生がおもしろい形をしたバッグの写真を見せて下さいました。

わたしたちは、何でできているのか考えてみました。



なな

木目があるから、
木でできてるんじゃないの？木がたくさんある村なのかな？

このバッグは、
間伐材で作られて
いるそうよ。
間伐材って何かな？

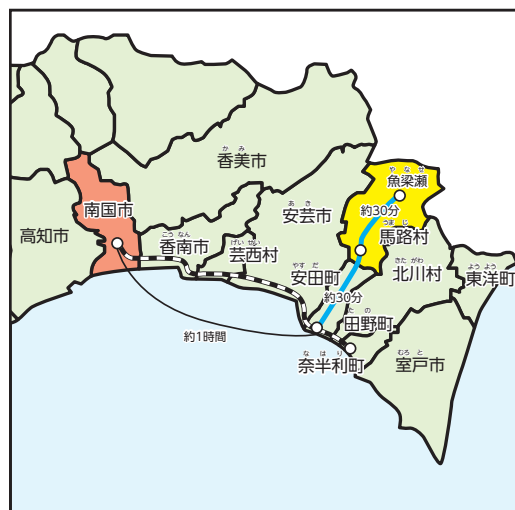


けん

先生が家族で馬路村に遊びに行ったときに、この写真をとったのだそうです。

けんさんたちはこのバッグのことが気になって、インターネットで馬路村のホームページを見たり、パンフレットをとりよせたりして、馬路村について調べてみることにしました。

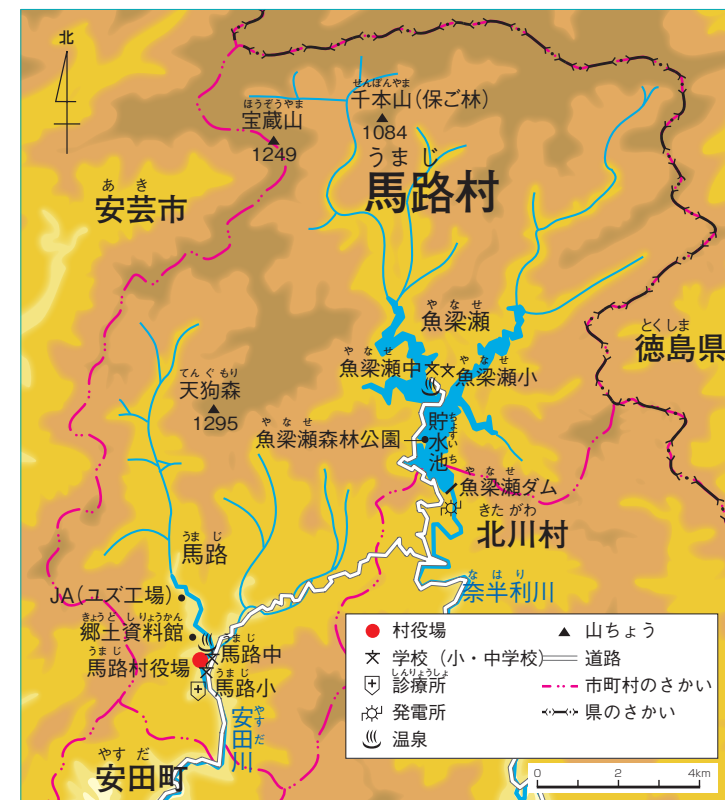
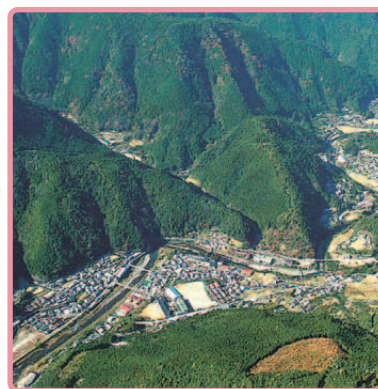
南国市から馬路村まで



馬路村を空からながめると



馬路村の中心のようす



山の自然 ななさんたちは、馬路村の自然や気候について馬路村役場のの人に聞いてみました。

馬路村の自然や気候について、調べてみましょう。



役場のおじさんの話

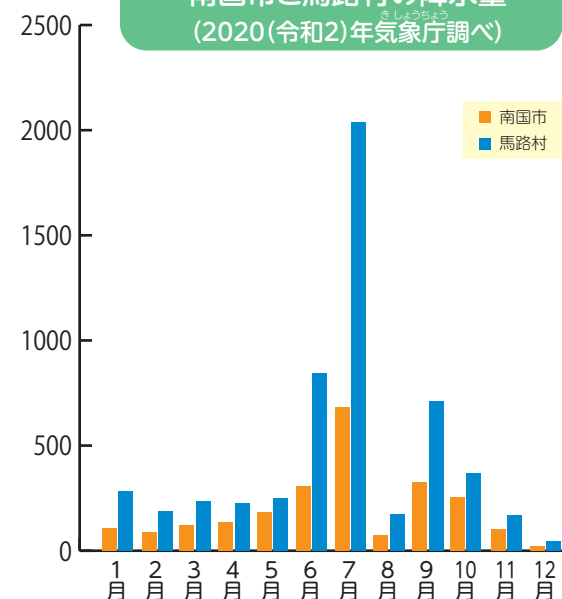
わたしたちの村は、
山に囲まれています。
(森林が96%) 平地

が少ないので、田んぼが作れませんが、自然にめぐまれ、おいしい空気もたくさんあります。

雨が多いので、木もよく育ち、おいしい水にもめぐまれています。

村では、この自然を生かして、いろんな取り組みをしているんですよ。

南国市と馬路村の降水量
(2020(令和2)年気象庁調べ)





せんぼんやま 千本山

やなせちくじゅれい
魚梁瀬地区には樹齢100年から300年に
なる大きな杉の木がたくさんあります。
ほごりん
国の保護林になっています。



やなせ
魚梁瀬ダム



なな

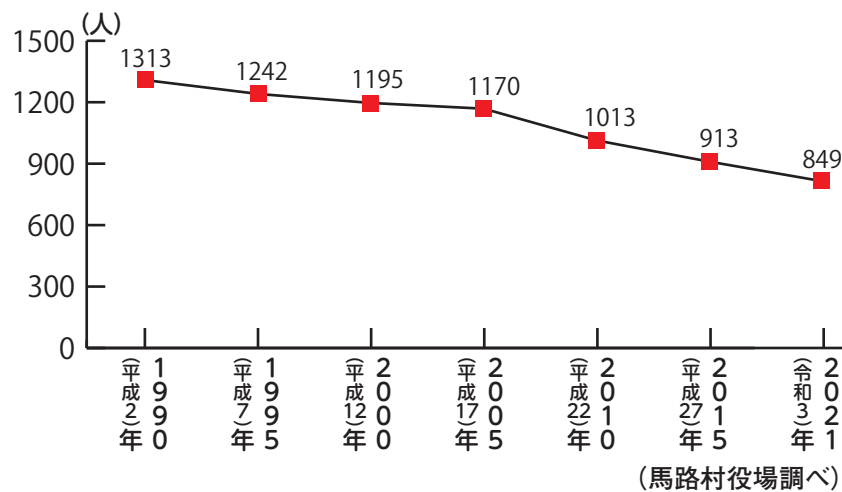
こんなに大きな
木をどうやって
育てるのかしら。
切り出した木は
どうしてるのかしら。

うまじむら
馬路村の人たちの仕事
(2015年 国勢調査)



ななさんたちは、この自然を生かしてど
んな取り組みをしているのか、村の人たち
がどんな仕事をしているのか、さらに調べ
てみることにしました。

馬路村の人口の変化



いつまでもつづく森づくり けんさんた
ちは、役場の人から送ってもらったパンフ
レットから、村の人たちが森を大切にしてい
ることに気がつきました。

馬路村の森づくりに
ついて、調べてみま
しょう。

かんばつ まび
間伐 (間引きする)



したくさ か えだう
下草を刈ったり、枝打ちをし
たりして手入れをします。

きかい えだ
機械を使って枝をとる。



トラックに積みこむ。



ちよぼくじょう
貯木場 (長さや太さで
分けて保管します)



バッグができるまで



木をうすく切る

森を
育てる

木材を
加工する

商品
を
売る



かんばつざい
間伐材を使った商品



ぬいつける



おしつけて形を作る



加工場 (エコアス馬路村) のおじさんの話

1本の杉の木を育てるのに40年かかります。りっぱな木に育てる
ために何回も間伐をします。間伐した木をすてるのはもったいないの
で、家などをつくる木材にする他に、バッグやトレーにしてむだにしない
ようにしています。バッグは外国の人にも人気の商品になりました。

うましむら 馬路村のゆず製品について、調べてみましょう。

「ゆずの森」加工場



①ゆずを洗う



②ゆずをしぼる機械にかける



③ゆずジュースをつめる



④ふたやラベルつける



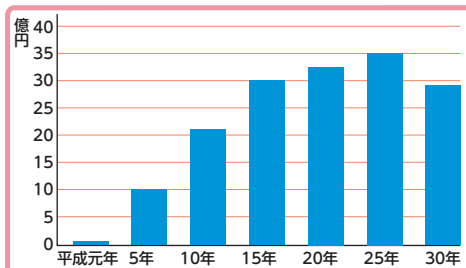
⑤箱づめされる



ゆずを使った商品

「ゆず加工品」の売り上げ高

(JA馬路村調べ)



コールセンター (電話で注文を受けつける)

林業の村から「ゆずの村」へ けんさんたちは、テレビでよく見るゆずジュースやポン酢について調べることにしました。

安心・安全なゆずづくり JAのおじさんは「ゆずの実は、見た目はわるいけど、安心・安全でおいしいのがじまんです。」と言っていました。けんさんたちは、ゆずがどのようにさいばいされているか調べてみることにしました。

馬路村のゆずづくりについて、調べてみましょう。



5月 (花がさく)



11月 (収かくする)



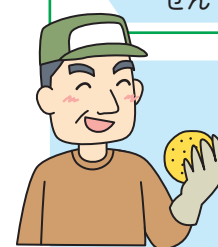
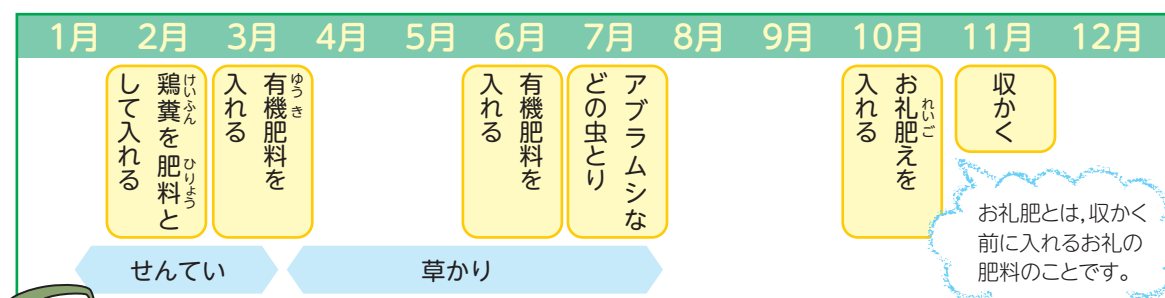
「ゆずの森」加工場



10月 (実がなる)



しゅうか集荷



ゆず農家のおじさんの話

馬路村のゆずは、農薬をできるだけ使わないで有機農業(にわとりのふんを使った肥料を使ったり、銅のこなを6万倍にうすめた水で消毒したりする)で育てているので体にやさしいんです。

畑が急な斜面にあるので、収かくのときはけがをしないように気を付けています。



急な斜面での収かく作業

馬路村の人たちの願いについて、調べてみましょう。

山地の自然を生かした村づくり けんさんたちは、これからの馬路村について、村役場の人にお話を聞くことにしました。



役場のおじさんの話

温泉やキャンプ場、マラソン大会などのイベントに全国からお客さんが来てくれるようになりました。村の人たちも生きがいを持ってらせるようになりました。これからは環境を守ることが大事です。自然を大切にしたら村づくりをすることで、多くの人がおとずれるようになります。馬路村の自然を生かして、多くの人とふれあえる村にしたいですね。



馬路温泉



おしどりマラソン大会



魚梁瀬オートキャンプ場



インクライン
(水の重さで動くケーブルカー)



森林鉄道

1年間で約6万人のお客さんが馬路村におとずれているそうよ。



なな

インターネットでもうしこむと、特別村民になれるそうだよ。



けん

自然かんきょうを生かしている地いき

選たくB ～黒潮町(海ぞいのくらし)～

「これは黒潮町の佐賀漁港でとったんだよ。」と、先生が一枚の写真を見せて下さ



わら焼きタキをつくっている工場



黒潮町には、カツオのわら焼きタキをつくっている工場があるのですよ。どうして、ガスや炭を使わないで、わら焼きをしているのでしょうか。

地図を見ると、黒潮町には、たくさんの漁港があることがわかりました。

けんさんたちは、海に面した黒潮町のくらしについて、黒潮町のホームページを見たり、パンフレットを取り寄せたりして、調べてみることにしました。

黒潮町について、調べてみましょう。

わらみたいけど、何だろう？



なな



黒潮町では、カツオがたくさんとれるんじゃないかな。他の魚はとれないのかな。



けん

黒潮町でさかな一本づり漁について、調べてみましょう。

カツオの一本づりがさかな佐賀漁港
調べてみると、黒潮町は、古くからカツオの一本づりがさかんで、中でも佐賀漁港には、カツオの一本づり漁船の漁獲高日本一になった漁船があることがわかりました。⁵



「カツオがとんでいるみたい。」
「船から水が出ているみたいだけど…」

カツオの一本づりの様子を見て、けんさんとななさんは、びっくりしたことや調べてみたいことがたくさん出てきました。



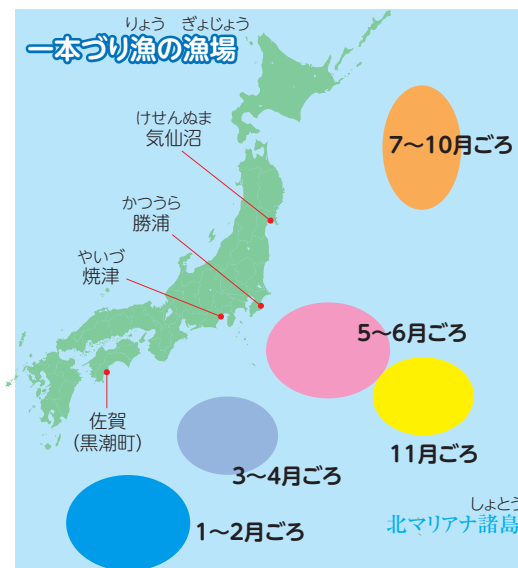
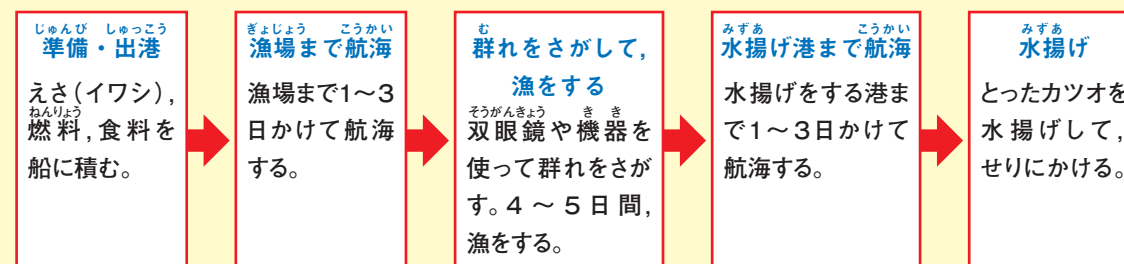
佐賀漁港を空からながめると

ななさんたちは、カツオの一本づりについて漁師さんに電話でお話をうかがい、調べたことをまとめていきました。



えさになるイワシは生きたまま船に積む

一本づり漁の流れ



季節によって、漁場が変わっているのは……。

佐賀漁港には、日帰りでカツオの一本づりをしている漁船もあるよ。



なな

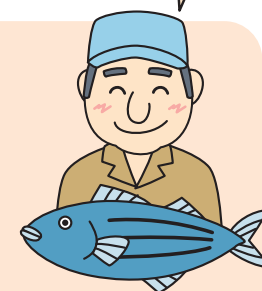


けん

一本づり漁師さんの話

毎年1月の終わりが2月のはじめに、佐賀の港を出て、11月まで漁を続けます。わたしたちの船がカツオを水揚げするのは、焼津、勝浦、気仙沼の漁港がほとんどです。ですから、その間は、船の点検で漁が休みになるときのぞいては、家族にも会えません。水揚げをした港では、家族に電話をすることが何よりの楽しみです。

全国にも知られている佐賀の一本づりは、わたしたちのじまんです。けれど最近では、環境はいいや気候の変化、取りすぎのためか、近海にいるカツオが少なくなっています。沖のカツオもいなくなるのではと心配しています。



黒潮町では、^{ぎょぎょう}漁業以外にどんな仕事があるでしょう。

これは、黒潮町で^{せいさん}生産がさかんな作物の畑だよ。これから何を植えるかわかるかな？



けん

自然を生かした仕事～黒潮町の農業～



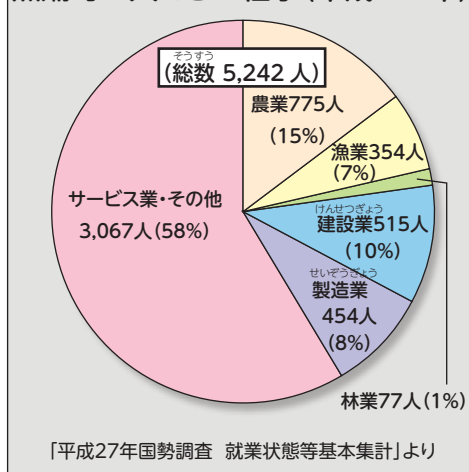
けんさんは、町役場の方から黒潮町で農業をしている方を紹介してもらいました。

9月に、けんさんは家族とその方の畑を訪ねることにしました。

畑を見たけんさんは、びっくりしました。畑は浜辺のすぐ近くにあって、^{すなち}砂地だったからです。

黒潮町の砂地では、らっきょうづくりが行われていました。

黒潮町の人たちの仕事(平成 27 年)



らっきょうの花 (11月)



らっきょうの種を植える (9月)

らっきょうの仕事ごよみ

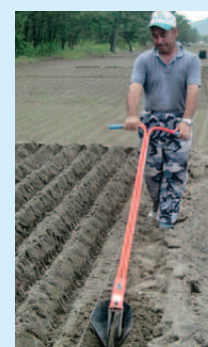
8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
土をたがやす。 肥料を入れて、 土を消毒する。	種を植える。 うねを作って、 土を消毒する。	土に肥料をまぜこむ。 根をはったら、 うねを落とす。	土に肥料をまぜこむ。 根をはたら、 うねを落とす。	土に肥料をまぜこむ。 根をはたら、 うねを落とす。	土に肥料をまぜこむ。 根をはたら、 うねを落とす。	土に肥料をまぜこむ。 根をはたら、 うねを落とす。	病気や害虫をふせぐ ための消毒をする。	土を休ませる。	収穫する。	土を休ませる。	土を休ませる。



収かく (5月)



出荷に向けた作業 (5月)



らっきょう農家の^{おくもと}奥本さんの話

らっきょうは、かんそうに強いので、砂地で育てることができます。水をやらなくても、自然に降ってくる雨だけでだいじょうぶなくらいです。

それに砂地で作ると、色も白くなって見た目がいい上に、皮がかたくなりすぎないので歯ざわりもいいのです。黒潮町のらっきょうは、見た目も味も、ほかのどの産地にも負けないと思いますよ。

黒潮町の砂地では、^{あたたか}暖かい^{きこう}気候をいかして、江戸時代からさとうきびのさいばいをし、^{くろさとう}黒砂糖の生産も行っています。



さとうきび畑



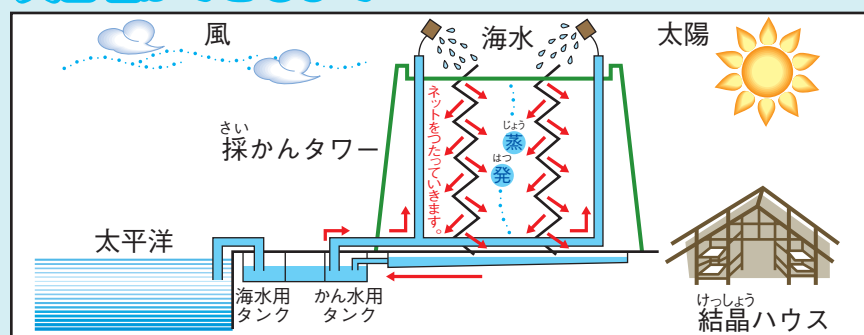
さい 採かんタワー

自然を生かした仕事～天日塩づくり～

けんさんは、黒潮町でふしぎな建物を見つけました。

それは、海水から塩（天日塩）をつくるためのタワー（採かんタワー）でした。

てん び えん 天日塩ができるまで



- ① 海水をポンプでくみ上げる。
- ② 海水を何度もネットにつたわらせることで、太陽の熱と風の力で海水の濃度をこくして、かん水を作る。
- ③ かん水を結晶ハウスの中で、一日一回攪拌して、塩の結晶をつくっていく。



けん



かくはん 攪拌作業のようす



かんせい 完成した天日塩



塩づくりをしている 石川さんの話

けっしょう 結晶ハウスの中は、夏場は50～60℃にもなるので、大変です。季節やその日の天気によって、攪拌の仕方をかえないとおいしい塩になりません。夏場は約1か月、冬場は約2か月かけてようやく完成します。海のミネラルがいっぱい詰まったおいしくて健康にいい塩をつくって、お客さんに喜んでもらうことが何よりうれしいです。

人が元気、自然が元気な町づくり

黒潮町では「人が元気、自然が元気、地いきが元気」が合言葉になっています。

黒潮町の人たちの願いについて、調べてみましょう。

黒潮町でできる 観光や体験



Tシャツアート展



シーサイドはだしマラソン



ホエールウォッチング



しお 潮風のキルト展



カツオのたたきづくり体験



ほかにも、海水浴やキャンプ、サーフィンなども人気があるそうよ。

黒潮町の人たちは、どうやって元気な町にしようとしているのかな？

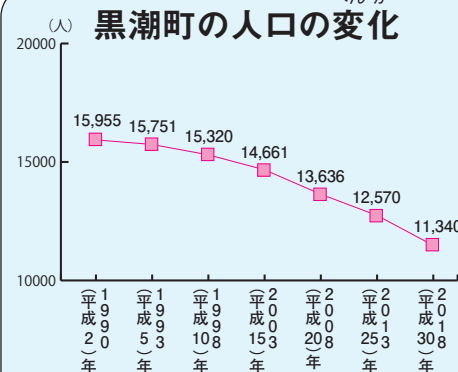
町役場の人の話



黒潮町は、ゆたかな自然にめぐまれています。その自然のいいところを生かした町づくりをすすめています。

町外の方に黒潮町の自然のすばらしさを知ってもらって、もっともっとたくさんの方に観光や体験に来てほしいです。黒潮町に移り住みたいという方も大かかげいです。

黒潮町の人口の変化



「黒潮町住民基本台帳」各年度末現在による

平成18年に旧佐賀町と旧大方町とが合併し、黒潮町となりました。平成15年以前の人口は旧佐賀町と旧大方町の人口を合わせたものです。